



活動の目標

フェアプレーの精神と正義感を養う

活動の概要

全国スカウトの日にあわせたカントリー大作戦に参加し、環境に対する問題意識を高めます
実施すること

団行事に参加し、空き缶ひろい、ゴミひろい、カーブミラーを磨く。

進級考査と夏季キャンプ感想文作成を行う。

(小雨決行。行事中止の場合は、進級考査と夏季キャンプ感想文作成のみ)

修得課目

うさぎ：笑顔 2、安全、わたしの町、わたしの仕事

し か：感謝 2、役に立つ

く ま：スマート 2、生活と環境、奉仕

選択課目

市民、友情、手伝い



9月度隊集会のお知らせ

9月のテーマ

かんジュース注意報



行事中止の場合

当日の 7 時すぎにカブ隊連絡網を通じて連絡をします。

その場合は、9 時 3 0 分に稲荷神社集合になります。

スカウト持ち物

カブスカウト歌集、カブブック、チャレンジ章、カブスカウト百科、筆記具、サインペン、水筒、雨具、進級課目に必要なもの

期日：平成 1 5 年 9 月 1 5 日 (日) 敬老の日

時間：8 : 3 0 ~ 1 3 : 0 0

場所：いずみ公園 ~ 下土狩駅 (清掃奉仕)

集合場所：いずみ公園

解散場所：稲荷神社

団行事中止の場合

(連絡網で中止連絡があった場合)

時間：9 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0

場所：稲荷神社

9月度「カブ通信」

スカウトのみなさんへ

8月におこなわれたキャンプでは、これから先も、あまりたいげんできないようなキャンプでした。たいふうがだんだんと近づくようになってから、風や雨が強くなり、テントがこわれたり、ねぶくろやその他の、にもつも、雨でビショビショになったりしましたが、団委員長さんがつくってくれた「しょくじ」のおかげで、からだはげんきに、すごせたと思います。そんな中でいった「おんせん」は、ひえていたからだ、あったまり、生き返ったような気分になったのではないのでしょうか。これから先、少々天気がわるくても、明るく楽しく元気よく、テントの中ですごすことが、できるようになったのではないのでしょうか。

そして、少々苦しいことやつらいことがおこっても、はねつけるような心をもつことが、できたのではないのでしょうか。

9月度隊集会では、全国のスカウトたちが、自分たちの住んでいるちいきで、「せいそうほうし」をおこないます。特に、缶ひろいがほとんどだと思いますが、ながいずみ2団では、カーブミラーをきれいにすることもおこなっています。

また、キャンプの時にできなかったカブブックのチェックをおこないます。たぶん、今月のたいしゅうかいが、クリアー章をとるための、さいごになるかもしれません。家で、できるものは、家で前もってじゅんぴをしておいてください。さらに、5年生は、くまのクリアー章と「上進章」をとらなければなりません。この上進章は、ボーイ隊に上がるために、しなければならぬ、こうもくです。これにもチャレンジします。さいごに、キャンプの「かんそうぶん」もかいてもらおうと思っています。



お知らせ

9月度隊集会では、団行事に参加した後、全員のスカウトがクリアー章取得のために進級審査を行います。ほとんどの皆さんはあと少しで取得できるところまでできています。この機会に事前に「カブブック」の項目を確認していただき、家庭でできるものであれば、保護者もサインすることができます。また、事前に課題ができるようなものは、隊集会当日に提示できるようにしていただいても結構です。

さらに、くまスカウト(5年生)は、クリアー章取得と同時に「上進章」課目もあります。これは、ボーイ隊に上進する前に事前に行うものがあります。詳しくは、「カブブック」の終わりの方のページに上進章課目が記載されていますので、確認しておいて下さい。

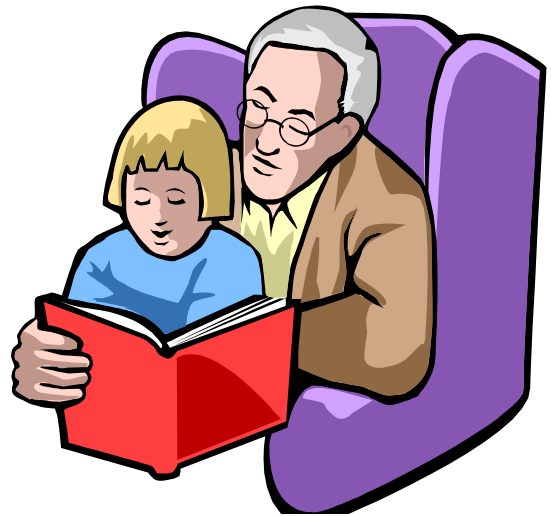


Coffee

その1 9月といえば...「敬老の日（けいろうのひ）」

9月15日が敬老の日というのは、2002年までで、2003年からは、移動祝日となり、9月の第3月曜日に設定されます。元々は、1954年に「としよりの日」という名前で制定されていましたが、この名前はちょっとひどいのではないかということになり、1964年に「敬老の日」に改められ、1966年に国民の祝日となりました。

そもそも「敬老の日」の由来は、聖徳太子が、大阪に四天王寺を建てた時、ここに四天王にあわせて、敬田院、悲田院、施薬院、療病院の四箇院を設置したと言われています。そのうちの悲田院というのが、今でいう「老人ホーム」で、この悲田院ができたのが、9月15日であり、この日が選ばれたという説があります。この悲田院は、もともと中国にあったもので、聖徳太子が、一流の国家は福祉も一流でなければならないという理想に燃えて設立したものです。



その2 9月といえば...「二百十日（にひゃくとおか）」



現在では、気象学が発達し、観測技術も高度に発展していることから台風の時期は、かなり正確に予測できるようになり、このため台風による被害も昔に比べれば遥かに少なくなってきました。人工衛星や高層の雲のレーダー映像等を活用できなかった昔は、秋に訪れる台風は恐ろしい存在でした。

台風が来襲する時期は、日本にとって最も重要な農作物である米の収穫時期にあたり、台風が稲の前に来るか後に来るかで、その一年の努力が水の泡となりうることもあるわけで、気が気ではなかったのです。また、漁をする人たちにとっても、海上で嵐に遭遇すれば、生死に関わるのですから、台風の来る日を事前に知ることが大変重要でした。

こうして、「嵐の来る日」として暦に載るようになったのが「二百十日」です。二百十日とは立春の日から数えて、210日目の日だということから名づけられたものです。同じような名前の暦日としては「八十八夜」や「二百二十日」があります。